

人々の思いが刻まれた銘

「～中」

石碑には、寄附者として個人名のほか、「氏子中」「講中」など、みんなでお金を出し合って建立した様子が伺える。

氏子中・信者中・村中・邑中・邨中・藩中・講中・行者講中・女講中(女中講)・若連中・子供中

また、起案した人＝発起人、実行委員＝世話人等の表記も多い。

「講」

講というのは物事の意味をときあかすことであって、佛教が栄えた平安朝時代の初期に寺院に集まった信者たちに僧が学問の講義や佛法を説いたことに始まったものであるが、後世になって講義を聞くものが多数集まって飲み食いして世間話をする行事に趣きを置く意味に変わってきた。

またこの講中の人たちのなかに貧しい人がいて、金策に困っている時に僧侶が責任を持って講中から金を出資させてその人に融通した。これが今の無盡講の起りで、責任者になるものを講元というのである。…きびのさとNo.89より

「～建之」

例「安政六己未年九月吉日建之」

「建之」は「これをたつ」と読み、その石碑がいつ建てられたかを刻んでいるものが多い。他に「建立」「立之」「造立之」「爲」など。

また建年号の前に「維時(これとき)」「峩」を付け、「この時この時間に～」と強調しているものがある。(10の三百年記念碑)

「～吉日」

建立の日を記す表現は「吉日」が最も多く、他に「吉祥日」「吉祥」「吉辰」「吉祥旦＝目出たき暁とか、朝の異称」「社日(春分と秋分に最も近い戊(つちのえ)の日で、土地の神を祭る祝日)」「辰日(たつのひ＝十二支が辰にあたる縁日で、ご利益を授かる日とされる)」

ほかに「上澣＝(じょうかん、月の初めの10日間)」「仲秋」など時季の表現もある。

「在米氏子」

渡米した人々の寄附による石碑も垣間見られる。故郷への思いがこめられている。

10 荒神社手水鉢(氏子中)



18 藺崎神社欄干(子供中)



41 地神(若連中)



7 題目石銘(女講中)



33 題目石燈籠(講中)



41 手水鉢銘(信者中)



68 渡米者寄附芳名碑(中正院)



6 在米氏子寄附碑(天神社)



庭瀬かいわい案内人によるガイドツアー



51 荒神様

令和7年2月14日



5 正法寺

令和7年6月17日

参考文献

『さびのさと』 吉備観光協会(宇垣武治) 昭和33年～43年発行
『吉備町誌』 吉備町史編纂委員会 昭和48年7月1日発行
『地場大師八十八ヵ所調査報告書』岡山市大内田周辺民俗文化財調査委員会 昭和56年1月31日発行
『地場大師八十八ヵ所調査報告書』坪井慈朗 令和5年12月発行
『わたくしたちの福田村』 吉崎治夫 昭和58年1月25日発行
『岡山県南部地域の道通信仰について』 平田満里子
『日本国語大辞典』 小学館
『大漢和辞典』 諸橋轍次

編集委員 (五十音順)

上森 剛
香田 清治
高橋 浩郎(故人)
坪井 慈朗
森安 哲彦

吉備・陵南にある石碑を訪ねて

路傍の文化財

平成23年(2011)年4月	初版発行
平成23年(2011)年8月	第二版発行
平成23年(2011)年10月	第三版発行
平成23年(2011)年12月	第四版発行
平成26年(2014)年3月	第五版発行
平成27年(2015)10月	第六版発行
令和4年(2022)8月	第七版ダイジェスト版発行
令和4年(2022)10月	第八版発行
令和6年(2024)6月	第九版発行
令和7年(2025)5月吉日	第十版ダイジェスト版発行
令和7年(2025)6月吉日	第十版発行

発行人	庭瀬かいわい案内人の会
編集	庭瀬かいわい案内人の会
発行所	坪井技研(岡山市北区撫川1274-1)

ISBN978-4-9908867-0-7
C0001 Y5000E

本書の一部または全部について、庭瀬かいわい案内人から文書による許諾を得ずに
いかなる方法においても、無断で複写・複製することを禁じます。